

平成31年度学校評価基準

本年度の重点目標	① 開かれた学校をつくり、地域・保護者からの信頼を得る。 ② 新学習指導要領に対応し、その成果を教育活動に反映させる。		
項目	重点目標	具体的方策	留意事項
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページにより本校の情報を広く発信し、学校への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に数回の更新を行い、広く関係者に本校の活動を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく見やすい内容や構成で掲載できるように配慮する。 個人情報の漏えい防止や写真の掲載確認等の管理を確実にを行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 交流及び共同学習を積極的に実施し、地域に根ざした学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の小学校・中学校・高等学校との交流及び共同学習を実施する。 中学部・高等部生徒と地域の方々との交流活動や奉仕活動を計画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流前に情報交換をし、共通理解を図る。各部署で計画的に実践する。 地域に向けて活動報告ができるように、各部署で活動の記録を残す。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや広報を利用し、本校の情報を広く発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学校要覧、地域の看板掲示用のチラシなどを、分かりやすいレイアウト・内容になるよう見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や氏名の掲載可否を十分に確認し、個人情報の漏えい防止に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> 企業、福祉事業所との連携を深めて、学校への理解を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業、福祉事業所との連携を深めるため、学校見学会を実施する。 学校や生徒についての理解推進を目指し、実習や校外作業学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校見学会へ参加できなかった福祉事業所については、電話等で連携を図る。企業についても学校見学を実施するが、要望があれば個別に対応する。 新しい実習先を積極的に開拓して、地域の企業、福祉事業所とのつながりを広げていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々に信頼されるよう、安全な学校環境作りを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月安全点検を実施して、安全で快適な学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化部だけでなく関係職員と連携し、異常箇所に適切に対処する。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園、小中学校、高等学校への特別支援教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校のニーズに応えられるよう、相談活動や検討会を行う。 地域の教員向けの研修会や授業体験活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> よりニーズに合った支援ができるよう、校内で事前に十分検討する。 参加教師が有意義な研修を受けられるよう、内容を工夫する。
新学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づき、教育課程の編成をする。 令和2年度に45分授業を実現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各領域・教科グループを中心に学習会を行い、教育課程を見直す。 日課表や時間割等の見直しと調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で取り組む。研修部主任や研修担当者と連携して計画的に進める。 各部署で計画的に見直しと調整を行う。他部署や他の校務分掌主任と情報交換をする。部会、学年会、運営委員会などで適宜中間報告をする。
	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領についての学習会と現職研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習会や外部講師を招いた研修会で、新学習指導要領への理解を深められるように、教務部と連携する。
	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動について素地を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動について、本校の課題の把握と情報収集をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他校の状況も把握し、全職員で共有できるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後を見据え、児童生徒が主体的に運動に取り組もうとする気持ちを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの成績や授業で計測した記録について、具体的な目標をもつことができるよう、児童生徒に分かりやすく伝える工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 何が得意で何が苦手か、どこを頑張れば成績や記録が伸びるかなど、児童生徒が分かる表現で具体的に伝える。
いじめに対する取組	<ul style="list-style-type: none"> いじめを未然に防ぐとともに、実際に起きてしまったら適切に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高等部において年2回生活アンケートを実施することで、表面化していない部分の実態を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ等の問題はなるべく早い段階で組織的に対処する。 児童、生徒の気持ちに留意して対応する。
職員の労働環境	<ul style="list-style-type: none"> すべての職員が相談しやすい環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会、学年主任会により職員の状態を把握し適切に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報に十分に留意して対応する。 組織的に対応できるように、関係者で情報を共有する。
学校関係者評価を実施する主な項目	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくり 新学習指導要領への対応 		

平成30年度学校評価（最終報告）

本年度の重点目標	① 教育活動の理解を深める。 ② 児童生徒の表現力を伸ばす。 ③ 生活年齢に合わせた道徳的実践を行う。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価と課題
教育活動の理解推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの内容の精選と改善をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの内容を精選し見やすいレイアウトにする。 ホームページの公開内容を確認し、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの各ページの公開内容の確認作業を各担当で割り振って内容の改善を行った。内容の更新時期をできるだけ早めていきたい。 ホームページの公開内容の確認はできた。レイアウト変更まではあまり進められなかった。
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に学校・学級の教育活動や方針を実際に見ていただくことで、共通理解を図り、協力体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> H29年度に引き続き、各部で授業参観期間を設ける。 進路学習会や保護者会等の来校時に授業参観が可能である旨を、各種案内文に明示し、参観を呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部で2日間、中学部と高等部で3日間実施した。同時期に2～3日間設定することで駐車場の混雑を避けることができた。次年度は、保護者の来校時期や回数を見直しをする。 他の行事の保護者案内に「授業参観をしていただけます。」と記載したが、実際に参観する保護者は少なかった。記載文の見直しと、保護者会等における働きかけなどの工夫をしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震に関する臨時情報が発表された場合の対応を新たに整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練、シェイクアウト訓練引渡し訓練等、様々な訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 引渡し訓練は台風の影響により実施できなかったが、2回のシェイクアウト訓練及び地震避難訓練が実施でき、各部の児童生徒は安全確保の行動や避難がしっかりできていた。 南海トラフ地震に関する対応マニュアルは、まだ国からの具体的な指針が出ていないため、今後、今までの東海地震に関する対応マニュアルを活用できるように改善していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園、小中学校、高等学校への支援活動や情報交換をとおして、地域の特別支援教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談活動や発達障害児等支援・指導検討会及びあゆみ相談をとおして園・学校や先生方のニーズに応じた支援を行う。 本校通学区6市の特別支援教育指導員等との情報交換会を行い、小中学校の先生方と課題や先進的な取組の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談12校、支援・指導検討会13校に訪問し、各校の課題に添った相談活動を行った。今年度のあゆみ相談はのべ11回である。 通学区6市の特別支援教育を推進する立場にある小・中学校の先生方と「自立を目指した支援」をテーマにグループワークを行った。各市各校の取組についての情報交換、今後の特別支援教育に生かしていただけるような本校からの話題提供などを通して、つながりを深めた。
表現力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の効果的な活用事例について、職員間で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材教具ライブラリの内容の見直しと活性化を図る。 夏期研修を通して職員のスキルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> サーバーの更新に伴ったデータの移動作業を進めることができた。教材教具ライブラリの見直しまでには及ばず、今後の課題となった。 夏期研修として行ったexcel、ipadに関する研修は活用できる内容として評価していただけた。今後は限られた時間の中でできる内容の精選やkeynoteやiMovieを使った即効性のある内容の研修を行っていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に応じた指導の充実を目指して、部ごとに計画的に研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部及び中学部は「自立活動」、高等部は「生活単元学習」をテーマに研究を行う。 昨年度の取組を土台に、授業実践や事例検討を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部ごとの計画に沿って、授業実践・事例検討を重ねて研究を深め、2年間の研究のまとめを行った。公開授業や報告会を実施し、職員間の共通理解を図った。今年度の研究の成果を次年度の指導につなげていきたい。
道徳的実践	<ul style="list-style-type: none"> いじめをなくし、自分や周りの人々の存在を尊重し、社会の一員として生きるための実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般を通して道徳教育の観点をもった実践を行う。 昨年度作成した道徳の目標、年間指導計画、指導内容等の検証を行う。 いじめに関するアンケートを学期に1回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度「共に生きる人材育成事業（道徳教育推進事業）」をとおして、各部で実践を行い、報告書をまとめた。 道徳の領域会を中心に、道徳の目標や年間指導計画、指導内容等について検証を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 交流及び共同学習や体験活動をとおして、人と関わる力や、身近な自然を大切にす心の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (小) 各学年で年1～2回近隣の小学校との交流及び共同学習を行う。 (中) 自然体験活動として、田植えや稲刈りを行う。 (高) 地域の団体との交流及び共同学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部は、近隣小学校の友達と手紙のやり取りをしたり、一緒に遊んだりして交流を深めることができた。中学部は、地域の人の指導及び協力を得て、田植えと稲刈りを体験することができた。高等部は、公民館駐車場の清掃や草取りを行ったり、老人会の人にグラウンドゴルフや書道を教えていただいたりすることができた。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 校内の環境整備に努め、職員の危機管理意識の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー研修の実施及びアレルギーを有する児童生徒情報を共有することで、児童生徒の安全な環境を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議で該当児童生徒のアレルギー症状や他の事例を挙げ、アナフィラキシー対応についてシミュレーション研修とエビペン使用講習を行った。初期対応の重要性や情報を再確認することができた。
職員の労働環境	<ul style="list-style-type: none"> 職員の在校時間適正化に努め、健康障害防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間の正確な把握に努める。 定時退校日の設定と、午後8時施錠を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間は昨年度に比べ確実に減少方向にあり、午後8時の退校時刻（定時退校日は午後6時）もほぼ守られるようになってきた。ただ、心身ともに不調を訴える職員は多く、今後も具体的な対策を講じる必要がある。
総合評価	全体的に具体的方策を実施でき、自己評価も高い項目が多かった。年間をとおし、一人一人の職員が目的意識をもって教育活動に取り組むことができた成果だと思われる。ただ、課題も多く挙げられており、今後もその課題に向け、継続的に努力していくことが大切である。		